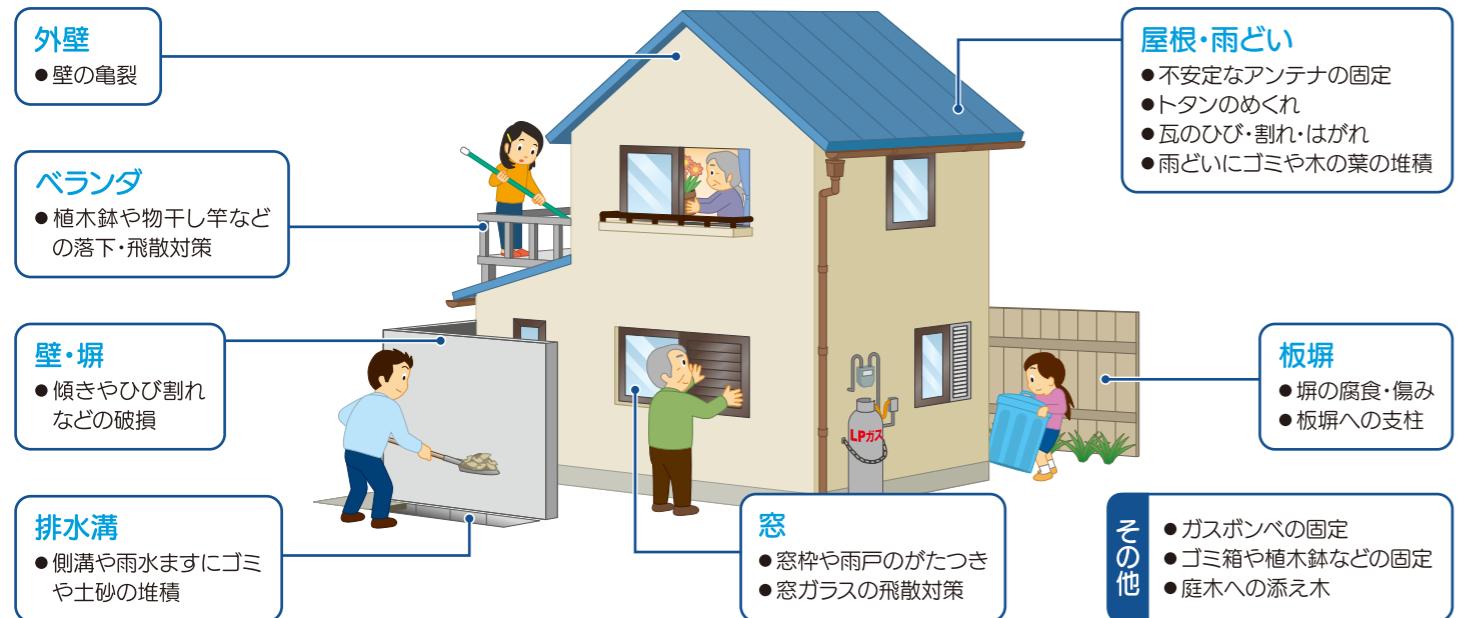


風水害・土砂災害に備える

●わが家を災害から守ろう

風水害による被害を抑えるため、日頃から自宅やその周囲の点検・修理・補強を行っておきましょう。



●風が強いとき・大雨のとき

毎年のように台風や集中豪雨などによって浸水害や土砂災害などが発生しています。これらの風水害は、地震と異なり、ある程度事前に災害の発生を予測することができます。危険が迫る前に早めに対応しましょう。まず、不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。また、テレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、津山市からの避難に関する情報に注意しましょう。

風が強いとき …近年、台風の大型化や強い勢力を保ったまま、日本列島に接近する傾向があります。



大雨のとき …集中豪雨の頻発化などに象徴されるように、昔に比べて豪雨の発生が急増しています。



●停電への備え

災害時には、強風や飛来物によって電線が切れるなど、停電が発生し、照明や冷蔵庫、冷暖房が使えなくなることがあります。また、被害の規模によっては復旧作業が遅れ、停電が長期化することもあります。停電や停電に伴う断水に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、予備のバッテリー、防寒具、非常食、飲料水なども準備しておきましょう。



●安全な避難のために



自宅から避難先までの危険な箇所を把握し、安全に避難するためにはどうすれば良いか、事前に確認しておきましょう。

市から避難情報が発令されたときや、ご自身で危険を感じたときは早めに避難行動を開始しましょう。夜間や豪雨の中での避難は危険です。

●雨の強さや降り方でわかる災害の危険性

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	・ザーザーと降る。	・どしゃ降り。	・バケツをひっくり返したように降る。	・滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	・息苦しくなるような圧迫感がある。 ・恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	・地面からのはね返りで足もとがぬれる。	・傘をさしていてもぬれる。 ・車のワイパーを速く動かしても見づらい。	・道路が冠水し、川のようになる。	・傘はまったく役に立たなくなる。 ・水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	・この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	・側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ・小規模のがけ崩れのおそれがある。	・山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険を感じたら避難が必要。	・土石流が起こりやすい。 ・多くの災害が発生する。	・大雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の程度は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を示しています。これらより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。